

ふるさと教育 取組事例

学校名	松江市立大庭小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	社会科	大庭の自然と歴史にふれよう。	茶臼山、風土記の丘館長 大庭公民館館長、地域の方
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・茶臼山に登山し、山頂から古代松江（大庭）一帯を臨み歴史の全体像をつかむとともに、ふるさとへの愛着を深める。 ・湖東かなび学園（大庭小・竹矢小）の6年生で交流することにより、中学校進学への期待を膨らませる。 		

1 取組の概要

校区内山代地区の象徴的な山である茶臼山（神名樋山）に学園の6年生全員で登り、山頂から古代より栄えたまちや地形を望んだ。そして、山頂で、風土記の丘の館長より茶臼山や古代出雲についての話を伺った。今年度より、同じ学園の学校である竹矢小学校と合同で実施することにより、児童同士の交流もねらった。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

古代出雲の要所であった土地を自らの目で眺めながら、当時に想いを馳せることで、ふるさとへの誇りをもつ。

また、本活動を実施するにあたって、大庭公民館や地域の方に登山道の整備などの協力をいただいた。地域に支えられていることを実感できる機会とも捉えている。



（学力育成の視点から）

身近な存在である茶臼山を通して学ぶことで、歴史への興味関心を高めることができる。

3 児童・生徒に見られた変容

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

校区以外からも茶臼山を見つけたり、家族と登ったりしたと報告してくる児童が多数おり、関心の高まりを感じた。

（学力育成の視点から）

時代ごとで茶臼山が人々にどのような存在であったかを知ることで、歴史学習において、人々のくらしや時代の移り変わりを理解する上での助けになっていた。



4 課題や今後の展望

1年前に始めた「茶臼山登山」の目的や位置づけをより明確にし、学習を効果的に展開することが課題である。そのためには、教職員も実際に登ったり、専門家の話を聞いたりする機会を設ける。また、本活動と2年生の生活科や3年生の総合的な学習の時間とのつながりや違いを整理することが必要である。他学年、他教科にも茶臼山と関わりをもたせる。

地域のシンボルであるこの山に関わる「人・もの・こと」を通して、地域への愛着を深めるとともに、地域をよくするためにすべきことを考え、発信していく活動を目指す。